



彩の技術士

公益社団法人 日本技術士会 埼玉県支部
The Institution of Professional Engineers, Japan 埼玉県支部

こうほう・Vol.23.2024.4.1.

〒333-0844 川口市上青木3-12-18 SKIPシティ A1-706B
埼玉県支部事務局

Tel.:048-263-0840, Fax.:048-263-0841

<http://www.engineer.or.jp/shibu/saitama/index.html>



目次

巻頭言	熊谷市長	小林 哲也
支部長挨拶	日本技術士会埼玉県支部支部長	石田 正雄
委員会活動紹介		
総務企画委員会	委員長	白岩 信裕
CPD委員会	委員長	菅原 宏
科学技術振興委員会	委員長	中田よしみ
地域産業支援委員会	委員長	近藤 孝
地域活性化委員会	委員長	若林 直樹
コーチング体験研修について	地域産業支援委員会	須郷 均
第10回彩の国産業活性化交流会の実施報告	地域産業支援委員会	大竹 史郎
技術士研究・業績発表大会の実施報告	CPD委員会	速川 敦彦
会員活動報告「技術士の活動を振り返って」	支部会員	阿津沢 潔
かわごえ産業フェスタ取材報告		
総務企画委員会	広報グループ	宮崎 優一
技術士試験・CPDガイドラインの案内	CPD委員長	菅原 宏
		佐久間 幹

巻頭言

広報誌「彩の技術士」の発行にあたり、ひと言挨拶を申し上げます。

「技術士」は科学技術に関する高度な知識と応用能力が国により認められたことを証明する国家資格であり、技術士の皆様は、高い技術者倫理を備え、継続的な資質向上に努め、高度な技術を地域産業の発展のために発揮していただいていると伺っております。そして、日本技術士会埼玉県支部におかれましては、産業経済、社会生活の科学技術に関するほぼ全ての分野にわたり、技術士の技術力を生かした活動を実施され、中小企業への技術支援や、産学官の連携のもと地域経済の発展にも御尽力をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

さて、私は、令和3年11月に熊谷市長に就任して以来、私の政策理念である「新熊谷プライドの創造」の実現に向け、市民皆様に笑顔になっていただくための様々なプロジェクトの推進に取り組んでおります。

例えば、「熊谷スマートシティ」を本格的に始動させ、地域電子マネー「クマPAY」によるキャッシュレス決済を開始するなど、地域のDXを推進しております。また、地域の念願である利根川新橋の建設や高速道路の熊谷への延伸など、将来の

熊谷市長 小林哲也

地域の発展に向けた事業も進展しており、これらの実現により地域の交通利便性がさらに向上することで、本市の産業がさらに発展するだけでなく、県北部地域全体の経済発展にもつながるものと期待しております。こうしたプロジェクトの推進においても、技術士の皆様のお力添えが必要でありますので、引き続き御理解・御協力のほどよろしくお願いいたします。



小林哲也 市長

近年、社会を取り巻く状況は目まぐるしく変化しております。地球温暖化の影響、少子高齢化による労働人口の減少、コロナ禍を契機とした働き方の変容など、複雑化・多様化した課題に社会全体として立ち向かうため、技術士の皆様に求められる役割は、ますます高まっていることと存じます。このようななか、その役割を果たすべく積極的に各種事業を展開されている貴会の存在を大変心強く感じているところでございます。

今後とも地域社会経済の発展に向け、貴会並びに会員の皆様のますますの御活躍を御祈念申し上げます。

支部長挨拶

埼玉県支部支部長 石田 正雄

昨年7月、支部長に就任して以来、支部の「社会への貢献度をより高める施策」を模索する中で、「つながり」が重要なポイントであることが見えてきました。

そして埼玉県支部として「次の10年間の支部活動を考える」活動を始め、委員全員で現状の課題と対応策を議論していますが、この中で出た今後の方向性として「社会への積極的発信」があります。これは、こちらから出向いて説明会を実施し「我々技術士はこんなことができます。是非、ご活用ください。」と発信するものです。しかし、技術レベルは高いものの狭い専門領域しか持っていない個々の技術士では対応に限界があります。そこで、個々の技術士の得意技を体系

化し「チーム埼玉県支部」として社会に向き合う体制づくりをトライしています。そしてさらに、外部とのつながりとして「埼玉産業人クラブ」への入会、関東甲信8県支部や技術士会統括本部との連携強化等も推進中です。また、広報活動としても、「埼玉県支部の紹介動画」を「YouTubeに一般公開」できました。

<https://www.youtube.com/watch?v=RZN6WEu1xco>

このような「つながり」を軸に活動を進めることで、我々は最終的に「地域中小企業様のイノベーションの手助けができるようになる」ことを目標としています。皆さん、一緒に頑張りましょう。よろしくお願いいたします。明るく楽しく元気よく。

総務企画委員会

埼玉県支部総務企画委員会委員長 白岩 信裕

1. 2023年度下期活動結果

下期は総務企画委員会広報グループにて支部PR動画を制作しました。展示会やオンラインで公開し、支部会員は元より一般の人でも視聴できるようにしています。動画は2分と短いながらも支部活動の全体を紹介し、技術相談やお困りごとの解決に応ずることを伝えています。

2. 2024年度上期活動方針

支部活動の将来を見据え、広報活動を推進すると共に、他委員会の活動の支援に力を注ぎます。即ち、広報誌の発行、支部HPの管理、支部紹介リーフレット

の更新、支部紹介動画の制作管理、運営を担い、技術士会及び技術士の知名度向上に努めます。

また、支部の組織運営の適正化と効率化を図るよう各委員会の事務処理や会議体の運営システムの改善を図ります。

上期は5月に技術士試験合格者祝賀会、7月には年次大会を開催します。活気ある支部活動を行うには、現在の会員の能動的な参加と新たな会員の参加が必要です。両行事共、支部紹介を適切に行い、参加者による意見交換が活発になされ交流が深まるよう企画、運営します。

CPD委員会

埼玉県支部CPD委員会委員長 菅原 宏

スローガン

「CPDプログラムを充実し資質向上に寄与しよう」

昨春にCPD行事の企画内容や運営に関する会員へのアンケートを実施いたしました。その回答から現行のCPD行事の企画運営において様々な課題が浮かび上がってまいりました。

そこで、表題のスローガンを掲げて昨夏より1年間の期間を設けて、CPD企画運営の改善を図るべく、課題に対して2つの検討チームを編成し、改善策を検討しております。

会員へのCPD行事の周知の仕方、会員がより参加しやすくなる方策、企画テーマの立案選定など改善すべき事柄は様々です。すぐに実行可能な事柄だけでなく、改善に時間を要する事柄もあり、試行錯誤も含め徐々に実行にしていけます。その間、ご不便やご不満に感じることもあろうかと思えます。

会員の皆様が資質向上を目指してCPD講演会・見学会に参加した際に、より満足していただけるような改善を継続的に図ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

科学技術振興委員会

埼玉県支部科学技術振興委員会委員長 中田 よしみ

【2023年度 活動報告】

2023年度は、例年実施している学童保育所での理科教室、女子中高生夏の学校での実験実習参加に加え、主催理科教室を東部地域小委員会と協力して越谷市内で開催しました。共同開催で得られる知見等が多くあり、次年度以降も各小委員会等と協力しながら、県内幅広く活動していきたいと思っています。

【2024年度 活動計画】

理科教室、CPD 講演などの活動を、引き続き行っていきます。さらに、活動地区の拡大、県支部 HP の活用、実験コンテンツの開発と拡充に加え、サイエンスコ

ミュニケーション能力の向上を「めあて」とした CPD 講演や見学会を企画していきたいと考えています。



女子中高生夏の学校2023

地域産業支援委員会

埼玉県支部地域産業支援委員会委員長 近藤 孝

2023年度は『新体制での地域産業支援活動の再構築』をスローガンに、活動を続けて参りました。

1. 社会貢献活動

① 防災支援グループは、昨年に引き続き立正大学でのDIG 演習を実施し、技術士がファシリテーターとして5名参加し好評でした。

2. 地域産業支援活動

① VCAD システム研究会（理化学研究所関係の研究会）への支援を継続し、会員企業の顧客向けのガラス物性測定に技術士2名が協力し、有効なデータを取得しました。また、合同運営委員会に技術士が2名就任して協力を行っています。

② 川口商工会議所の「川口 i-mono・i-waza ブランド」審査部会の審査員に技術士2名が参加しブランド登録支援を行いました。

③ 1月24、25日の「彩の国ビジネスアリーナ」にリアル出展を行い、4件の技術相談及び2件の連携の申込があり、有益な出展となりました。

④ 2023年後半の技術相談は11件と例年より多く、適任者を見つけ支援を行いました。



引き続き、企業様からのご相談をお待ちしております。

地域活性化委員会（その1）

埼玉県支部地域活性化委員会委員長 若林 直樹

地域活性化委員会は、支部創設以来10年間にわたって、支部の基本方針である「技術の力で地域の発展に貢献」に基づき、地域との密接な連携を図ってきました。コロナ禍において、活動がやや停滞した感は否めませんが、「未来、次の10年に向かって」、より一層、地域社会への貢献に注力していきます。

以下、各地域小委員会の活動内容を報告します。

1. 東部地域小委員会 委員長 平松達生

11月4日（土）（株）エフエムこしがやの越野理事長に CPD 講演会として「エフエムこしがやの設立と防災活動」を講演していただきました。参加者は35名（技術士会会員30名、一般5名）でした。越野氏は様々な逆風をはねのけて、（株）エフエムこしがやを

設立し、防災活動を行われています。越野氏はコミュニティ放送の主な役割である「地域密着性」「市民参加」「防災・災害情報」にこれからも全力で取り組んで行こうと考えておられます。ローカル放送から地域の防災を促進しようとする（株）エフエムこしがやと技術の力で地域に貢献をスローガンとする埼玉県支部は共通するテーマも多く、これからも連携を拡大していこうと考えています。現在、東部地域小委員会の発足からの活動の振り返りとこれからの活動について運営委員が意見を出し合い、協議しているところです。CPD 活動は来年度のテーマについて協議して、CPD 講演会とコロナ禍で止めていた CPD 見学会も開催することを検討しています。

地域活性化委員会（その2）

埼玉県支部地域活性化委員会委員長 若林 直樹

2. 西部地域小委員会 委員長 近藤訓

西部地域小委員会の2023年度後半の活動実績と2024年度活動方針について記述します。

2023年度は9月に(株)住田光学ガラス見学会を、11月にかわごえ産業フェスタに「“川越城を偲んで”（3Dモデルによる再現の試み）」を出展しました。

また、12月には「脱炭素社会をみざす-再生可能エネルギービジネスの現場から」と題して脱炭素技術についてのCPD講演会を開催しました。

2024年度の主な活動としては、脱炭素技術に関するCPD講演会・見学会の実施を予定しています。さらに、2022年度及び2023年度に引き続き、かわごえ産業フェスタへの出展を計画しています。

また、地域貢献に関しては、コロナ禍で活動が不十分でしたが、今後は、商工連携を中心とした活動を展開していきたいと考えています。



住田光学ガラス見学会



かわごえ産業フェスタ

3. 北部地域小委員会 委員長 小柳直昭

北部地域小委員会は主に県北部を中心に CPD 行事および地域連携活動を実施しています。

CPD 行事では、技術士の資質向上を図るために CPD 講演会・見学会を実施しています。本年度後半は9月に秩父市にある日本キャタピラー合同会社 D-tech Center の見学・講演会を行い、各種建設機械のデモンストレーションを見学するとともに、土木工事の生産性向上のための ICT 施工に関する最新技術動向が紹介されました。来年度も引き続き地域に関連する話題や施設・会社をテーマに選んで実施していく予定です。

地域連携活動では、支部スローガン「技術の力で地域の発展に貢献」の元に県北部地域の熊谷市・深谷市、熊谷・深谷商工会議所、SAITEC 北部研究所、ものづくり大学・立正大学・埼玉工業大学・本庄早稲田国際リサーチパークおよび埼玉県農業大学校等と連携し、地域の産業および中小企業の支援を行っています。

来年度も引き続き上記関係機関との連携に努め、地域の発展に貢献していきたいと考えています。

コーチング体験研修について

埼玉県支部地域産業支援委員会 須郷 均

毎年6月中旬に開講しているコーチング体験研修会。本講習会の目的は第一義的には会員技術士が埼玉県支部の登録相談員として登録を受けるための必須要件としていることにあります。2023年度は6月17日に新都心ビジネス交流プラザを会場に講師としてコーチング研究所の五十嵐久氏を迎え、受講生、運営スタッフ、その他19名の規模での開催となりました。

課題を抱え相談に訪れたクライアントを前に、私たちはつい「課題を見極め的確な解答を示すこと」を目標に行動していませんか。そのために質問を用意し得られた回答をもとに技術的に優れたこたえを示そうと努力していませんか。そのこたえは、時に独善的であったり、妥協的であったりしてはいませんか。

ところで技術士がコーチングを学ぶ意味はどこにあるのでしょうか。先に述べたとおり、とかく私たち技術

士は質問することの意義を自らが用意すべき「良い解答」を提供するために必要な情報収集の場と捉えがちです。しかし視点を変えて、「質問者自身が課題の本質に気付くこと」を目標とすることができれば、そこでは自ずとクライアント自身が解答への展望を見出し、これこそが最適解であるという状況に導かれます。まさに「答えは相手の中にある」と言われる所以です。今年度も例年通り6月の開講を予定しています。登録相談員を希望される方はもとより、他者を支援することの本質に気づき関心を寄せる多くの会員技術士に広く参加をお勧めします。



コーチング体験研修

第10回彩の国産業活性化交流会の実施報告

埼玉県支部地域産業支援委員会 大竹 史郎

日本技術士会埼玉県支部の2大イベントの1つである「彩の国産業活性化交流会」は、行政、支援機関、企業、技術士が行政施策、支援事例等を発表し、互いに意見を交わして産業活性化の道筋をさぐる交流会です。

プログラムは以下の通り実施しました。

テーマ：技術士はこんな支援ができます 第5弾

日時：2023年11月24日（金）13:00～17:00

会場：新都心ビジネス交流プラザ

1. 挨拶 日本技術士会埼玉県支部長 石田 正雄
2. ご挨拶 埼玉県産業労働部 産業創造課 課長 坂入 康昭氏
3. 特別講演 「本当は怖い国際基準」
理化学研究所 前任研究員
インターネット協会 OIC 運営委員長 加瀬 究氏
4. 支援技術紹介（埼玉県支部技術士）
 - 1) 企業は儲けてナンボ
機械部門 中村 憲雄氏
 - 2) 全業種対応！トラブル完全対策法
機械部門 國井 良昌氏
 - 3) 社会動向の変化への対応支援
機械・電気電子・総監部門*1 山本 哲氏
 - 4) ダイカスト技術のトレンド
機械・金属・総監部門*1 金内 良夫氏
 - 5) 環境経営推進のおすすめ
環境部門 江原 仁氏

はじめに石田支部長の挨拶で、生産年齢人口減少から生産性を上げる必要があり、スローガンである「技術の力で地域の発展に貢献」のためにも技術士によるイノベーションが必須であるとの考えが示されました。

次に坂入康昭氏より以下のご挨拶がありました。埼玉県技術士会の高度な専門技術でイノベーションを起こし、中小企業への技術支援により埼玉県の発展につなげてほしい。加えてカーボンニュートラルに向けたサーキュラーエコノミーの実現のためにも、技術士としてイノベーションを起こしてほしいとの依頼がありました。

特別講演では、加瀬究氏より、漫談調のわかりやすい国際基準の実態の講演がありました。

規格は基本、方法、製品、マネジメントに分類される。強制力や法制化されている規格はいつのまにか国際標準になってしまい、日本のビジネスの空洞化を生んだ例もある。（セキュリティチップ「フェリカ」）

欧州連合は、自国への有利な形に持ち込むのがうまく、法制化、ヨーロッパ規格の作りこみ、公開実証実験、国際規格化の流れの形を構築している。欧州の産業の国際競争力強化の観点からISOを中心とした国際標準化が行われている。例としてWTO・TBT（貿易）協定での国際規格（ISO）を基礎とすることへの義務付けや品質（ISO9001）環境（ISO14001）情報セキュリティ（ISO27001）などの規格化に伴う、PDCAの対応がある。日本は、2050年のカーボンニュートラルを宣言しているものの、地球環境のために何ができているのかと欧州より指摘されている。

最後に技術に基づく製品化、標準化・差別化にむけて日本が乗り越えていけるよう技術士への支援の依頼がありました。

支援技術紹介では、「技術士はこんな支援ができます」をキーワードに、幅広い分野の技術士5名が発表順に以下の各分野の支援技術の紹介をしました。

- 1) 技術立国への復活のため、企業は3つの取り組みで企業発展が必須。各種機関と連携中。
- 2) 6つの匠の技を活用して設計段階でのトラブル撲滅が可能。トラブル撲滅のコンサル継続中。
- 3) GX,DXの動向に応じた企業毎の個別課題への適切な技術の選定を提案。
- 4) アルミニウム合金の様々なダイカスト技術の事例紹介。
- 5) 環境/企業経営には、自然・環境資本の土台が重要。効果的な省エネを提案。

技術支援のご要望があればご遠慮なく
saitama@engineer.or.jp へご連絡下さい。

*1:総合技術監理部門の略称



彩の国産業活性化交流会の会場風景

技術士研究・業績発表大会の実施報告 埼玉県支部 CPD 委員会 速川 敦彦

2024 年度技術士研究・業績発表大会が、2024 年 1 月 6 日(土)に新都心ビジネス交流プラザにて 36 名が参加し開催されました。

村山肇幹事の司会により、石田正雄支部長の開会挨拶で始まり、4 名の技術士による発表がなされ、閉会は菅原宏 CPD 委員長の挨拶で締めくくられました。

四つの発表は以下のとおりです。

発表1. 「最近の埼玉県における豪雨対策の取り組み ～流域治水について～」

埼玉県総合治水事務所 長谷部進一氏 (建設部門)

埼玉県は水害に対して脆弱であるにもかかわらず、浸水リスクの高い地域が市街化により人口増となっている中、浸水被害は近年上昇中であることや最近の県内の豪雨・台風被害の紹介があった。洪水被害は降雨の降り方と地形の状況により変わること、気候変動によって降雨量が大きく変わると治水対策も大きく影響する懸念が示された。流域治水としては気候変動を考慮し対策を進めると共に、さらに治水施設でない発電用ダムや農業用溜め池を利用する等、他施設と協力しながら進めていると述べられた。



長谷部進一氏

発表2. 「開発における大型トラックの 騒音、振動、操安性の特徴」

長谷川技術士事務所 長谷川俊一氏 (機械部門)

騒音振動は数値評価があるものの、快不快は主観的な意味合いが強いという導入から、大型トラックの仕様の説明と、各種対策技術の紹介がなされた。自動車騒音規制値は順次厳しくされているものの、交通量増の影響で実測値は下がっていない。そのためさらなる規制強化が行われている。近年はタイヤ騒音が目立つため、規制導入と共にタイヤメーカーへの働きかけも行われている。車外騒音で大きなものとしてエンジン・吸排気騒音の発生とその対策について紹介された。また室内振動騒音について共振防止対策、乗り心地評価、操縦性について説明があった。トラックは乗用車と比較して技術的対応が厳しい部分が多いことが紹介された。



長谷川俊一氏

発表3. 「技術士は AI とガバナンス (統制) に どのように対応したらよいか？」

TAKE 国際技術士研究所 黒澤兵夫氏

(情報工学、総監部門)

生成 AI/ChatGPT の利用により仕事の取組み方が変化する。生成 AI は今後利用が拡大していくが、セキュリティ、質問プロンプト作成等の課題も多い。海外プレス情報等の紹介を例として著作権問題についての課題、雇用への影響について示された。また ChatGPT の仕様について紹介され、日本企業が生成 AI を扱う難しさ(日本語処理、データベース、スーパーコンピュータクラスの処理能力)についての指摘があった。生成 AI の活用方法とその課題について、また日本政府の最近の生成 AI の予算、動向について紹介された。生成 AI を利用するルール、注意点について説明がなされ、技術士は積極的に利活用すべきと結んだ。



黒澤兵夫氏

発表4. 「陳腐化した「日本!ものづくり」から 新たな「ハイパープロダクション」への発動」

国井技術士設計事務所 国井良昌氏 (機械部門)

生産現場で日本のものづくりが陳腐化し、生産基盤が緩み始めていることから、新たな生産概念「ハイパープロダクション」を唱えて開始した活動内容を紹介された。海外企業の分析や飲食業界での目標設定を事例として、製造現場への提言、要因分析による具体的な対策について示された。具体的には簡易設計書の導入、シンプル FMEA の活用、試作価値の見直し等で具体的に実施したコンサルの紹介がなされた。山形県と岩手県における活動状況を示された。日本企業の設計部と製造部の実力差を埋め、コンカレント開発での具体策が重要であるとの提言がなされた。



国井良昌氏

閉会后、懇親交流会が行われ、発表者を交えた自由な雰囲気の中、参加者一同の親睦が深められた。

会員活動報告「技術士の活動を振り返って」

埼玉県支部 阿津沢 潔 (経営工学部門、総監部門)

2000年3月に、技術士経営工学部門に登録し、24年になるが、技術士会に関わる活動を振り返ってみると、2007年～2015年までの埼玉県支部発足前後の活動、その後の経営工学部会での活動の二つに分けられる。

1. 埼玉県支部発足前後の活動

2011年11月に、日本技術士会埼玉県支部が設立されたが、その4年前の2007年から埼玉県技術士会の業務委員としての活動が始まった。2009年4月からは、埼玉県技術士会の業務委員長を前任の戸村氏から引き継ぎ、コラボ産学官様と共催の技術課題相談会(年4回開催)、展示会への出展、その他、業務開拓活動を行った。これらの活動は、埼玉県支部になっても継続して行われている。

2011年11月の埼玉県支部発足後、2013年7月まで業務委員長を務め、その後、2013年7月～2015年6月まで、副支部長兼総務企画委員長を務めた。総務、企画、広報、会計などを担当し、埼玉県支部としての活動が本格化した時期でもあり、以下のような新しい課題にメンバーの方々とSKIPシティ事務所で、議論を重ねたことが思い出される。

- ・日本技術士会の埼玉県支部としての会計処理
- ・「支部運営における個別事項に関する手引き」作成
- ・広報誌「彩の技術士」の創刊及びweb発注方式による印刷方式の変更、月刊技術士に同封配付依頼
- ・「埼玉県支部リーフレット」の発行
- ・支部幹部会議、年次大会、役員会の企画・運営
- ・SKIPシティ事務員との雇用契約締結など

2. 経営工学部会での活動

2014年6月から5年間、経営工学部会の幹事を務め、2019年6月よりは監事を務めている。また、幹事の5年間は、同時に技術士会の倫理委員を務め、2015年6月～2017年5月の2年間、倫理委員会啓発小委員長を務めた。2016年5月には、「第9回技術者倫理シンポジウム」の企画、運営を行い、『科学技術の進展と社会への影響～リスクにどう向き合うか～』というテーマで、3名の方の講演を依頼し、自ら、シンポジウムの趣旨説明を行った。

埼玉県支部の活動も併せて、2017年6月の日本技術士会の定時総会で、会長表彰を受賞した。

【岩手三陸協力ワーキング活動】

現役時代の工場が岩手県にあり、2011年3月の東日本大震災の被災状況を目にして、何か協力

出来ないかと考えていた時に、経営工学部会例会でワーキングメンバーの募集の話があり、即座に参加を表明した。

それ以来、毎週のワーキンググループ会議で議論を重ねながら、8年間にわたる以下の活動を行った。

(1) 起業家のための事業計画策定セミナー

三陸なりわい塾(釜石)2回(2012、13年度) 大船渡なりわい未来塾6回(2013～2018年度) 小生、全てに参画し「事業の仕組みと組織づくり」の講座を担当、発表会の講評や塾まとめ等を務めた。

(2) 中小企業の再生支援(MOT企業指導)

釜石・大槌産業育成センターの依頼で、2013年度2社、5回訪問、2014年度、2社、6回訪問、2015年度、2社、6回訪問指導を行った。

(支援内容 拡販活動、市場調査、生産体制整備)

(3) フォローアップ

大船渡なりわい未来塾の6回の受講生57名の内、18名の方が起業や事業拡大などを果たしたとの大船渡市の情報である。小生、毎年、卒業生が開店したお店などを訪問し、フォローアップ活動を行うなど卒業生との交流を継続している。

(4) 大船渡市より感謝状贈呈

2022年10月13日、大船渡市市制70周年記念式典にて、日本技術士会が感謝状を贈呈され、小生が代表して、式典に参加した。



2023年6月 於徳島



式典の会場

3. 個人の活動

上記の活動期間中、個人として企業のコンサルタント、中小企業庁やNEDOの補助金審査員、補正ものづくり補助金の地域審査会委員長等を務めた。

2024年1月現在、8社の企業に対して、コンサルタント活動を継続している。品質マネジメントシステムの改善、人材育成などが主な目的であるが、所有している実務経験を少しでもお役に立てればとの思いである。また、技術士活動とは違うが、地域の民生・児童委員として、地域の方々の支援活動も行っている。

埼玉県支部にはCPD等でお世話になっております。お礼を述べさせていただくとともに、今後の発展を祈念して結びといたします。

🌀 かわごえ産業フェスタ取材報告

埼玉県支部総務企画委員会 広報グループ 宮崎 優一、佐久間 幹

埼玉県支部地域活性化委員会 西部地域小委員会が「川越城を偲んで」という展示企画で参加された、かわごえ産業フェスタ（2023年11月11日～12日開催）を取材しました。

展示企画は江戸時代の川越城を、国土地理院の資料や地理データならびに既存のジオラマなどを活用してCGで再現したもので、当時の地形と現在の街並みを比較説明した内容でした。それによると、当時の地形や建物の名残を実感するよい機会になり、城門から本丸までの道を実際に歩いているような視点でたどる機能を使うと、まるで空中散歩のような体験ができます。

ICT技術と地理情報を活用することで、過去と現在

を関連付けることが可能となり、地形の変遷や土地利用、過去の災害履歴や埋設物の見える化に応用することができます。実際に今回のイベント以外での利用についての相談もあったというお話を聴くこともできました。今後も地域に役立つものに進化させることを継続して実施することが期待されます。

フェスタ会場では他にも、高校生対抗のロボット競技会、ヒト型ロボットについての講演会などの催しも行われておりました。若年層の興味発掘や地域住民への企業や団体の取り組み紹介など、地域産業との結び付きを強く実感できるイベントでした。

🌀 技術士試験・CPDガイドラインの案内

埼玉県支部CPD委員会委員長 菅原 宏

(1) 技術士二次試験

申込書書等配布：3月25日(月)～4月15日(月)

申込受付期間：4月1日(月)～4月15日(月)

書留郵便（当日消印有効）

筆記試験：7月14日(日) 総合技術監理部門必須科目
7月15日(月) その他の技術部門及び総合技術監理部門の選択科目

口頭試験：令和6年11月～令和7年1月までの間
(別途通知)

合格発表：筆記試験 令和6年10月通知

口頭試験 令和7年3月官報公告

(2) CPDガイドライン

2023年5月に「ガイドライン」、「管理運営マニュアル」、並びに手引書の「技術士CPDガイドブック」が同時改訂されました。

これらの中で、CPD登録体系（CPD区分、CPD時間の算定基準）が変更されています。

右下のQRコードで改定内容の詳細にアクセスできます。

CPD登録の際に、ご利用ください。



🌀 埼玉県支部協賛団体の紹介

(団体名は加盟順)

1. ベルセッジ・インコーポレイテッド
(日本代表：菅原宏様)
2. NPO法人 彩の国技術士センター
(代表理事：山木幸夫様)
3. 有限会社 中村金属工業
(代表取締役：三木虎連様)
4. 共和コンサルタント 株式会社
(代表取締役：小山一裕様)
5. 一般社団法人 技術士さいたま
(理事長：中村憲雄様)
6. 株式会社 テクノクオリティ
(代表取締役：渡部利範様)
7. 株式会社 日さく
(代表取締役社長：若林直樹様)

🌀 編集後記

今回の広報誌は、コーチング体験研修、かわごえ産業フェスタの取材報告、そして技術士試験等の案内を新たに掲載しました。今後も、広報誌を通じて、会員の皆さまに技術士としての使命や役割について考える機会を提供できればと思います。

つきましては右下のQRコードからアンケートにアクセス頂き、ご意見やご感想をご記入願います。



おくづけ 公益社団法人日本技術士会 埼玉県支部
こうほう・彩の技術士 第23号
発行年月日 2024年4月1日発行
発行者 埼玉県支部（支部長：石田正雄）
E-mail saitama@engineer.or.jp
編集 埼玉県支部総務企画委員会